

こどもの病気「気管支炎」

かぜがながびいて、気管支炎や肺炎に進行することがあります。気管支のところか炎症していれば気管支炎、肺まで炎症を起こしていれば肺炎ですね。近頃は、肺炎になったからといって、かならずしも入院する必要はないようです。でも、お子さんの場合は、状態が変化しやすいので、様子をしっかりとみてあげましょう。お医者さんの指示にしたがってくださいね。

- 原因：ウイルスの感染が多いです。肺炎球菌などの細菌や、マイコプラズマによって起こることも有ります。
- 症状：かぜの症状から、咳がひどくなってゼイゼイというようになります。
- 治療：去痰剤や気管支拡張剤を処方されることがあります。吸入をすると楽になることもあります。

(治療については、お医者さんの判断によりちがいます。ここには一般的なものを記載しています。)

- 病院に行くタイミング：咳がひどくなってきたら受診してください。
- いつから学校（保育所）にいったいいい？：咳がおさまって、元気になったら大丈夫です。
- おうちでできること：
 - 休む・・・家でゆっくりしていきましょう。
 - 湿度・・・お部屋の湿度を上げましょう。加湿器を使う。タオルを干すなど工夫をしましょう。
 - お風呂・・・息苦しいときや、熱の高いとき以外は入ってもかまいません。
 - 水分・・・少しずつ何度もとりましょう。
 - 食べ物・・・特に制限はありません。食べられるものをあげましょう。

ここでは、気管支炎は、細気管支炎、肺炎、喘息様気管支炎、気管支喘息とは別の病気としています。また、マイコプラズマ肺炎も別の機会に紹介したいと思います。

気になる症状「咳」

咳は、かぜ症候群や肺炎、気管支喘息などさまざまな疾患に出てくる症状です。でも、咳は、気道（空気の通り道）の分泌物（痰など）や、侵入物を排除するための、反射または当然の反応で、体を守るための防御機構なのです。つまり、咳を止めてしまうのではなく、その原因を取り除くことが大切なのです。咳には、湿った感じの咳（感染症に多い）ものや、乾いた感じの咳（ほこりや異物などに多い）など、種類も原因もいろいろあります。

咳をとめてしまうと、悪いものが除かれず、余計に悪化してしまう場合もあります。治療には、咳を出しやすくするために、痰をうすくする、粘り気をへらす、気道の痰をだそうとする運動を活発にさせるなどの働きをする去痰剤が、よく使われます。もちろん、咳のために食事や睡眠が取れなくなっている場合や、激しい咳で体力が落ちてしまっている場合など、状況に合わせて咳止め（鎮咳薬）の出される場合もあります。

お子さんが咳をしている姿はとてつらそうにみえますが、自然治癒力（自分の力で病気をなおすこと）も大切です。部屋の湿度をあげたり、背中をさすってあげることなど、お母さんのできることをしてあげてください。原因がなくなって、早くよくなるといいですね。